

退院後も

つながります

あなたの

こころとからだ

## 岩手県立高田病院支援活動日記（その4）

IHI 播磨病院 整形外科 西川 梅 雄

3日目（木）朝いつものように外来。大澤先生が患者を選んでくれているようで、外来はスムーズにできるのでありがたい。お昼は大澤先生が運転する車でお勧めの中華料理屋へ。自然環境活用センター横にある。760円ぐらいのラーメンを食べる。美味しい。その後隣の自然環境活用センター（写真①）へ。



写真①自然環境活用センター前で

ここは地震の翌日職員・患者等が全員避難し、現在の仮設診療所ができるまでの避難所兼診療所になってい



写真②電柱に張り付いた養殖牡蠣の網。

たところである。その中まで見てから帰院したらまさに髭じいが車で駐車場を出るところであった。島貫先生の車にはすでに3人ほど乗っている。大澤先生はその後について行ってくれた。今日は箱根山（標高447m）の市民の森展望台。ここからは南方正面に小友地区が見え、その向こうの山の右中腹に陸前高田オートキャンプ場モビリアがある。モビリアは昨日午前中に訪問

りハに行った所だ。また小友地区は太平洋に突き出た広田半島の根元の部分で東西両側から津波に襲われたところで、平地には何も無い。そのあと広田湾方向に降りる。防波堤が根こそぎ壊れて、電柱には上のほうに養殖の牡蠣が網ごと引っかかったままだ（写真②）。電柱の高さが約13mなので、10mぐらいの津波が来たと推測できる。この近くの海の中に民家の屋根が長い間沈んでいたという。大船渡線のレールの位置も本来の位置からとんでもないところまで移動してしまっている。何という悲惨な光景。



写真③整形外科外来で。もう何か月も一緒に仕事したと言う感じ。頭の光ぐあいは大澤先生（前列向かって左）のほうが強いのは、やはり若いからか？

午後外来の人たちと記念撮影（写真③）。

皆親切でなんだか何か月も居た様な感じがする。

午後7時頃から住田診療所の職員仮設住宅で歓送迎会（毎週やってるらしい）。今日はしゃぶしゃぶ。牛肉、新鮮な地元野菜など全てが美味しい。

島貫先生、大澤先生他応援の医師、PT、M 運転手など参加。大いに盛り上がる（写真④）。島貫先生は若い人たちの横にいて、にこにこしながら私たちの「しょうもない話」にも付き合ってくれているという感じである。石木院長（写真⑤）が出たテレビの DVD を皆で見た。それにしても病院壊滅状態で自らも身内を亡くされた被災者なのに、地震の3日後には不自由な中でも診療を再開されている。院長だけではない。地震翌日屋上からへりで吊り上げられた副院長、衛星電話を部下に渡した直後に津波に襲われ殉職した事務局長、その他高田病院全ての職員に頭が下がる。もしも自分の勤務する病院に津波が来て壊滅状態になった時、高田病院職員のような行動が取れるのかと自問する・・・。なんとすばらしい人たちなのだ。



写真④ コテージ風仮設住宅で。美味しい岩手牛や新鮮な野菜をお腹一杯食べた。



写真⑤ 石木幹人院長（向かって左）温厚な風貌だが、眼光鋭く精神力の強さが伺える。

翌日（金）早朝荷物を整理していたらドアをノックする気配がするので、怪訝な顔をして開けると何と髭じい（島貫先生）が立っていた。DVD を私に渡すためにわざわざ持ってきて頂いたのだ。3 日間市内を案内して頂いた時、いろいろ記録した DVD をあげましようと言われていた。とにかくお礼を述べる。相生に帰ってから見ると高田病院のことを記録した写真や新聞記事、昨日の飲み会で撮った写真まで入っていた。8 時前 M 運転手さんが来た。紅葉しつつある山々を見ながら思い出一杯の町を去って行った。

今回の活動で見たものは、震災後 6 カ月以上経っても、いたる所に残っていた瓦礫の大山や津波の爪痕であった。そんな中で現地の方々の「生き様」を目のあたりにし、接することができたことが、何より得難い経験であった。黙々とたくましく、強く元気で、私のような他人にも、やさしさと勇気を与え、粛々と日々を暮らしている。そんな人々を何と賞賛してよいのやら・・・。ありがとうございました。

被災地の 1 日も早い復興を衷心より祈念いたします。 合掌。

T T A K 新聞のバックナンバーは

播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/>からご覧になれます。